

乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO.57

2019.2

細胞周期を停止させてがん細胞の増殖を抑える 新たな分子標的治療薬： ベージニオ(一般名：アベマシクリブ)

がん細胞が増える過程(細胞周期)を停止することにより、がん細胞の増殖を抑える再発・転移乳がんの治療薬として、ベージニオが発売されました。ベージニオは、ホルモン受容体陽性でHER2陰性の手術不能または再発乳がんに対して、ホルモン療法薬(フェマール、アリミデックス、フェソロデックスなど)と一緒に使われるお薬です。

がん細胞の増殖の抑制



正常な細胞では規則的に細胞分裂が繰り返され、一定期間の寿命を終えると自然に死滅していきます。この過程を細胞周期と呼びます。

がん細胞では、この細胞周期をコントロールする物質であるCDK4やCDK6が異常に働くことで、細胞周期を止めるブレーキがきかず、結果としてがん細胞が無制限に増殖している状態になっています。

ベージニオは、「CDK4および6阻害薬」に分類され、CDK4やCDK6を狙い撃ちすることでその働きを抑えます。ベージニオ投与により細胞周期にブレーキがかかり、がん細胞の増殖を抑制します。

同種の薬剤としては、イブランス(一般名：パルボシクリブ)がすでに市販されていますが、副作用など多少性格が異なります。

主な副作用など



ベージニオは

ホルモン療法薬と併用して、経口で使用します。副作用の程度によって、1回の量を減らしたり、一時的に休薬することがあります。

主な副作用として、下痢、疲労、脱毛、好中球減少、貧血、肝機能障害などが報告されています。ベージニオの投与開始前および服用中は定期的に血液検査を行います。また、下痢の兆候(軟便傾向)を認めた場合には、水分補給と下痢止めを使用します。

ご自身の治療にあたってわからないことや不安なことがあれば、遠慮せず、医師や看護師、薬剤師に相談してください。